



Q5、感染症による偏見や差別 をなくすには、どう行動するこ とが重要なのか？

Q6、看護倫理学会は、なぜ 「医療従事者への感謝」の声明 をだしたのか？

- 目次
- 1、感染症による偏見や差別をなくすには、
どう行動することが重要なのか？
 - 2、看護倫理学会は、なぜ「医療従事者への感
謝」の声明をだしたのか？
 - 3、Share Health としてでた意見・感想

1、感染症による偏見や差別をなくすには、 どう行動することが重要なのか？

今ある偏見や差別；医療従事者の子供は幼稚園に預かってもらえない
中国でもアフリカ人の差別（住居強制撤退、レストラン入店禁止など）
訪問看護師に対する、「外出するな」の声
マスクをしていない店員が客に怒鳴られた

日本心理委員会によると、差別を生まないためには、

- (1)事実を広める
- (2)社会的影響がある人が情報を発信する
- (3)経験者が情報を発信する
- (4)民族の多様性を受け入れる、様々なコミュニティを受け入れる
- (5)報道を利用する
- (6)根拠のないうわさに振り回されない

2、看護倫理学会は、なぜ「医療従事者への感謝」の声明をだしたのか？

- 上記のような偏見や差別があるから
- 医療従事者の大変さを理解してもらい、行動を見直すきっかけにしてほしい

3、Share Health としてでた意見・感想

- ✚ SNS が発達した現代では、デマがとびやすいから、国がその情報は正しくないということを否定していくことが必要
- ✚ しかし、無限にある SNS の情報を国がいちいち確認してそのたびに修正している暇はない
- ✚ 私たちは冷静に適切な判断をしないとイケない

- ✚ デマは多くの人には、悪気があって拡散するのではなく、トイレトペーパーがなくなるなど、生活に関わるから、教えてあげないというように、善意で広めている可能性がある。
- ✚ 安易に広めるのではなく、情報の信ぴょう性を確認して、信頼できるものを広めることが必要
- ✚ マスクは WHO によると、感染している人や感染者を近くで看病する人などには有効とあり、普段の生活ではそこまでは必要とされていないといわれているが、（もちろんするに越したことはないが）そういった正しい情報は発信しているところが少ない
- ✚ また、マスコミは周りが興味を引くようなことを中心に報道する。もちろん、経営や視聴率等を考えたら難しいのはわかるが、偏りなく報道してほしい
- ✚ もう治っている人に対しても差別的な目を見るが、差別している側は、自分がかからないと思っているのではないか。自分も保菌者であるかもしれないという自覚を持ってほしい
- ✚ 公共交通機関とか、だれでもどこかで感染する可能性があるということ自覚したほうがいいのかも
- ✚ 自分だけかからなければいいと思っている
- ✚ 国同士でも、いまアメリカは中国に責任を押し付けようとしている。責任を押し付けて争いを生もうとするだけ
- ✚ 日本も阿部さんがなにをしても批判がとぶ
- ✚ 人と人通し、助け合いの気持ちを持つことはできないのか
- ✚ しかし、全世界、全国民が不安のなかにいることはたしか
- ✚ 誰かのせいにしたくなる気持ちもわかる
- ✚ 病気そのものについてもよくわからず、不安が募り、その不安が広がり、差別的な行動をとるのは、自己防衛の本能的な行動という記述もあった
- ✚ 差別や偏見がいいとは思わないけど、コロナの患者をみている医療者の家族が感染リスクが高いのは事実だし、不安な状況なら仕方ないかなとも思う
- ✚ ただ、頑張っている医療者が社会のなかで肩身の狭い思いをするのは違うと思う

- ✚ 医療者の子供は幼稚園とか受け入れないってなったら、医療者はそうやってはたらくの
- ✚ 医療者の健康ももちろん守らなくてはいけない状況のなかで、健康は体だけじゃなく、精神の健康も含まれるべき
- ✚ 差別とかあったら、精神の健康はどうやっても守れない
- ✚ 先日の情熱大陸で、ルカも結構大変な様子だった
- ✚ 看護師さんの中には、コロナの患者さんを診ていることを家族に内緒にしている人もいる
- ✚ 病棟に出たくないって言うてる人もいるし、医療物資も足りなくて本当に大変そうだった
- ✚ 海外では、医療者に向けて拍手送ったりしているけどなにかできないか
- ✚ Share Health で聖路加の看護師さんになにかしたい
- ✚ 感謝の動画とかつくる
- ✚ オフラインで共有しやすい
- ✚ 清掃とか、事務の人も含めたい
- ✚ メンバーだけでなく、学内全体でやりたい
- ✚ いつもお世話になっているし、せっかくなりがあるから
- ✚ これで病院の人に何か伝えたら、今どんなことを学生に求めるかとかもわかるかも
- ✚ 差別をなくすには、やはり、事実を広め、事実をキャッチすること、私たちはうわさに流されないことが大切